

もしも、あなたのクラスで、なにか特別な理由<sup>とくべつ りゆう</sup>があって、みんなとちがう方法<sup>ほうほう</sup>で学んだり、みんなとちがうモノ<sup>つか</sup>が使えたり、大人<sup>おとな</sup>がサポートしたりすることが、先生や学校からゆるされている子がいたとして……

それをあなたが「ズルい」「ひいき」「不公平<sup>ふこうへい</sup>」だと感じたとしても、それは正直<sup>しょうじき</sup>なきもちだと思います。だって、あなただって、まだ大人の助け<sup>たすけ</sup>が必要な、子どもなのだから。

でもね、少しだけ、想像<sup>そうぞう</sup>してみてください。

近視<sup>きんし</sup>の子がメガネをかけること。

花粉症<sup>かふんしょう</sup>の子がマスクをつけること。

食物アレルギー<sup>しょくぶつアレルギー</sup>のある子が、みんなとちがう給食<sup>きゅうしょく</sup>を食べること。



たぶん、これを「ズルい」と思う人は、いないのではないのでしょうか。

みんなと一緒に<sup>いっしょ</sup>不自由<sup>ふじゆう</sup>なく健康<sup>けんこう</sup>にすごすために、メガネも、マスクも、別の給食<sup>べつ きゅうしょく</sup>も、それぞれの子に必要なだから、教室では「それが当たり前<sup>あたりまえ</sup>」になっているでしょう？

これと同じで「みんなと一緒に<sup>いっしょ</sup>生きる上で、すごく困<sup>こま</sup>っていることがある人の、それぞれの特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>な理由<sup>りゆう</sup>に合わせた、当たり前<sup>あたりまえ</sup>の工夫<sup>くふう</sup>やサポート」を「合理的配りょ<sup>ごうりてきはい</sup>」といいます。

「合理的配りょ<sup>ごうりてきはい</sup>」は、日本<sup>にほん</sup>のルール（法律<sup>ほうりつ</sup>）で、

病気<sup>びょうき</sup>や障<sup>しょう</sup>がいなど、なにか特別な理由<sup>とくべつ りゆう</sup>がある人には、例えば、学校や会社、駅や乗り物、お店などは、その人と相談<sup>そうだん</sup>しながら、環境<sup>かんきょう</sup>を整えたり、モノを工夫<sup>くふう</sup>したり、人のサポートをしたり…など、その人が困<sup>こま</sup>らないための「配りょ<sup>はい</sup>」を、できるだけしてください

……と決められています。もちろん、困<sup>こま</sup>っている子どもにも、です。

そして、もしも必要な時<sup>ひつよう</sup>には、あなただって、ちゃんと「配りょ<sup>はい</sup>」してもらえます。

近視<sup>きんし</sup>の人が「がんばって、遠くも見えるようになって」と言われてもむずかしいように、だれにだって「どんなにがんばっても、できないこと」はあります。

ですから、もし、あなたに「どんなにがんばっても、できないこと」があって、学校や毎日の生活ですごく困<sup>こま</sup>っている時には、その理由<sup>りゆう</sup>が特別な<sup>とくべつ</sup>のかは分からなくても、「サポート<sup>サポート</sup>をお願いします」「助けて下さい」って、周りの大人<sup>まわ おとな</sup>に相談<sup>そうだん</sup>してみてくださいね。

それは、ズルでも、ひいきでも、不公平<sup>ふこうへい</sup>でもなくて、みんなが一緒に<sup>いっしょ</sup>生きていく上で、「必要<sup>ひつよう</sup>で、当たり前<sup>あたりまえ</sup>のこと」なのですから。